Architectural Institute of Japan

日本建築学会北海道支部
研究報告集No. 83 (2010年7月)

室蘭市における町内会館の役割とその現状

正会員　○加賀谷　仙一*1
同　　真境名　達哉*2

5.建築計画－2.施設計画
町内会館、地方都市、室蘭市、高齢者

1．研究の背景と目的

これまで町内会館は地域住民の最も身近なコミュニティ施設として多様に利用されてきた。町内会館は「知恵を出し合い、力を合わせる場となる施設」と浅野が指摘するように[1]、例えば地域の防犯や環境保全など行政が十分に対処できない課題を話し合う場や協力して葬式を行う場所としての役割は重要である。しかし、寒冷地（北海道）では冬季利用制限から施設が閉鎖的になりがちであり、札幌市の町内会館などは地域住民の一部利用に留るなど、ほとんど利用がされていない状況がある[2]。一方で、室蘭市では町内会館を市の説明会などにも一部利用している現状もある[3]。

本研究では地方都市である室蘭市を対象に町内会館の利用者と利用の実態をとらえ、建設のきっかけと現在の利用に違いがあるかなどの現状を把握する。さらに、今後の利用についての可能性として町内会館で新しい活動や利用が行われているのかを考察する。

2．研究の方法

研究の構成および方法は図1に示す。町内会館の概況を把握するために室蘭市内の町内会館に対してアンケート調査を行った(図1)。その概要は町内会活動の実態、町内会館の基本属性・利用の実態、建設時の意識と現状の利用に関する意識の比較、運営における収支や維持費・補修についてである(3章)。また、6館をヒアリング調査し部屋の利用状況や、利用に関して重要な空間を把握することで新しい利用があるのかを考察する(4章)。

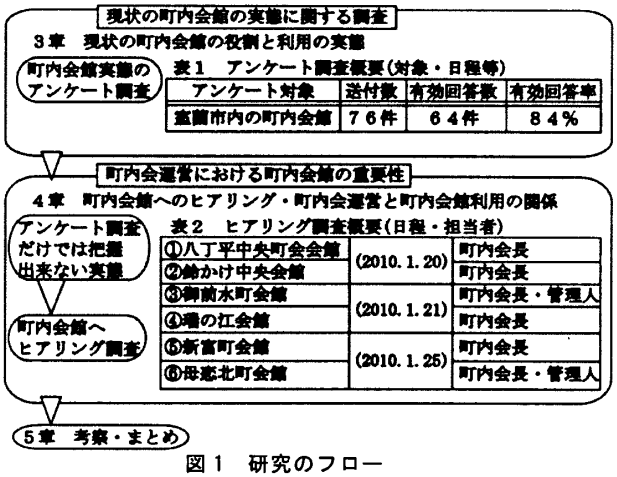

図1　研究のフロー

3．現状の町内会館の実態調査

3．1　町内会館の基本属性

建物の延床面積は平均211 ㎡であり、(延床面積の分布は図2に示す) 延床面積は年々減少している（図3)。会館の構造は木造建てが多く(95%)、平成以降は1階建てが多くみられる。会館は概ね大集会室、小会議室、キッチンで構成されており、44%が事務室を保有していた(図4)。大集会室については和室よりも洋室の方が多く(68%)、多目的に利用できるため洋室が好まれている。また、大集会室の面積は平均で77 ㎡であるが、その規模については最大で198 ㎡、最小で13 ㎡と各町内会館で大きな差があった。キッチンは全体の9割以上が所有しており、トイレに関しては全館が所有し全体の6割が「男女共同別々のタイプ」に対して4割が「男女共同タイプ」であった。

物置(倉庫)については会館一体型と敷地内に単体

Role and current state of town hall in Muroran City

KAGAYA Senichi et al.

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

で配置しているものがあり、会館一体型の物置では外からも使用できるプランもあるので(26%)、祭りや地域清掃などの外部活動時への利便性が見られ、靴の履き替えや人の動線などを考慮したプランであると思われる (図 5)。駐車場は半数の会館が所有しており、平均駐車台数は 11 台である[注1]。駐車場については単なる駐車スペース以外に祭りなどの外で活動する場所としての利用もなされていると考えられる。

図 2　町内会館の延床面積 (N=53)

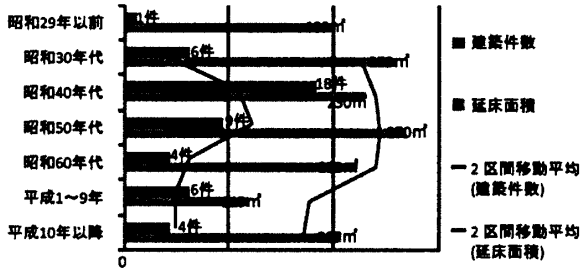

図 3　年代別の建築件数と延床面積 (N=48)

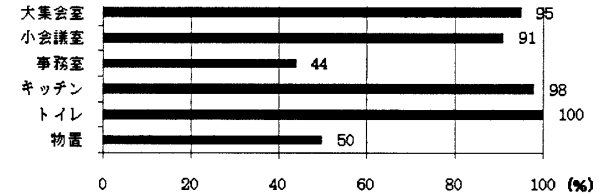

図 4　町内会館の部屋構成 (N=64)

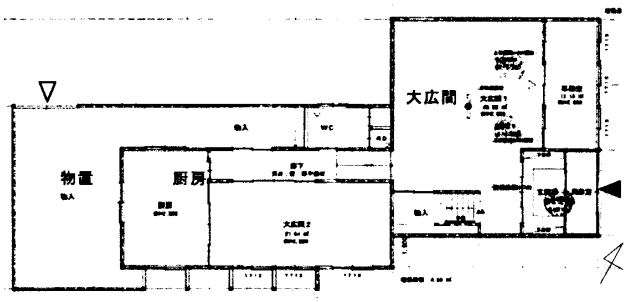

図 5　物置の大きなプラン (絵鞆町会館　S=1:300)

3．2　町内会館の運営

室蘭市の町内会運営・会館利用は共に年齢が 50～70 代を中心に運営・利用をしているが(図 6、図 7)、役員会(100%)、防犯灯設置(92%)、パトロール活動(83%)なども行われており、その他にも高齢者への声かけ(71%)など高齢者が多いなか町内会活動はしっかりと行われているようだ(表 1)。

町内会館は昭和 40～50 年代に多く建てられており、そのきっかけは町内会議をする場所がなくて困った(84%)、葬式会場がなくて困った(45%)など住民にとって切実な問題の解決策として建てられたようだ(図 8)。会館の建設費は町内会員で積み立てたが一番多く(70%)、昭和 40～50 年代は室蘭市の人口が約 17 万人と最も多い時代でもあった。また、この時期は市が制定した会館新築や増築に関する資金等融資貸付制度を利用している町内会もあり、この制度は町内会館が多く建てられた要素の一因と考えられる(図 9)。

会館の運営時間については 7 割の会館が決まっておらず、使用するときのみ開館しているようだ。運営時間が決まっていると回答した会館の平均運営時間は 10 時間であった。また、会館の鍵の管理については町内会役員が持っている(89%)が一番多く、会館によっては管理人がいるものもあった。町内会の運営費は年間で平均 173 万円であり、会館利用時の料金による収入は年間で平均 31 万円となっている。会館利用料に関しては、基本的に町会員の会議やサークルなどの利用時には無料とし、外部の団体や個人的な利用時のみ徴収しているようだ。会館の維持・管理費については平均で夏は月 6 万円、冬は月 9 万円となっており、冬場の暖房費に困っているという結果もアンケートから分かっている。

町内会館の補修工事については、今後 5 年間で行いことについて「外壁・内壁の塗装(37%)」など各項目横並びであり(図 10)、補修工事の積み立てをしているかについては「積み立てをしている」が 70%あり、その金額は平均で毎年 94 万円と今後の会館維持についてもしっかりと考えているようだ。しかし、アンケートの中には「維持は難しいので積み立てをやめた」や「会館の取り壊すための積み立てをしている」などの意見もあった。

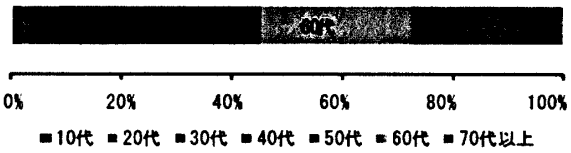

図 6　町内会活動メンバーの年代 (N=61)

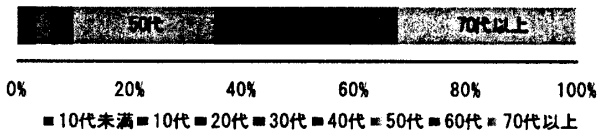

図 7　町内会館の利用者の年代 (N=63)

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

表 1　町内会活動

1位 (100%)	役員会	5位 (87%)	道路・公園の清掃管理
2位 (92%)	回覧板 防犯灯設置管理 交通安全	6位 (83%)	廃品回収 パトロール活動
3位 (90%)	町内会議 婦人会 老人クラブ	7位 (79%)	花壇整備 ごみステーション設置管理
4位 (89%)	祭り	8位 (75%)	カラオケ
		9位 (71%)	高齢者への声かけ
		10位 (60%)	自主防災活動

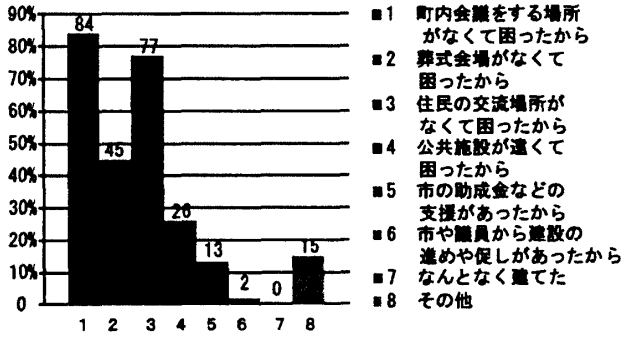

図 8　建設のきっかけ (N=62)

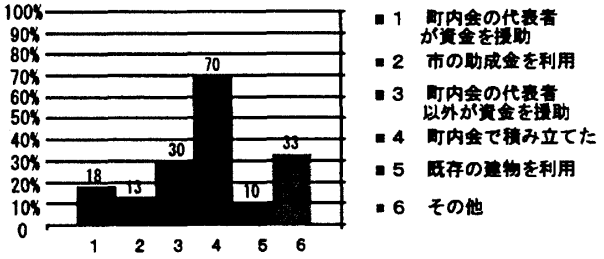

図 9　町内会館の建設費 (N=60)

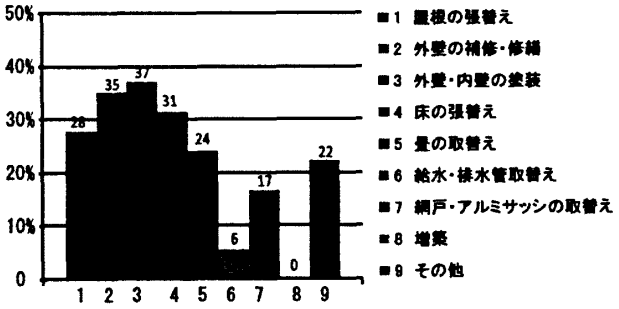

図 10　今後 5 年間で行いたい補修 (N=54)

3．3　町内会館の利用の実態

町内会館の利用の増減をみると会館建設のきっかけの一つであった葬式利用(図 8)は現在では減ったという回答が多く(70%)、交流に関しても半数近くが減ったとの回答である。全体の会館利用件数の増減をみても約 4 割が建設当時に比べ減少している(図 11)。会館利用の活動(N=50)では会議や祭りなど町内活動が行われている他に老人クラブ(70%)やカラオケ(66%)など趣味・娯楽としての利用が多い(表 2)。また、防犯灯設置管理やパトロール活動などの外部活動については町内会館を拠点として活動していることもアンケートから分かった。市の利用に関しては各種説明会として介護予防事業などが町内会館で行われている。

町内会館の管理と利用における[注2]お困りでは「維持・管理費(53%)」が一番多く、「雪の処理(49%)」や「暑さ・寒さが気になる(24%)」と寒冷地ならではの問題があるようだ。他には「キッチンが狭い(20%)」という回答もあった（表 3)。冬場の寒さや維持費についてアンケートでは暖房のお困りについても聞いており、その結果は「会館の使用前に暖房をつけに行かなければならない(60%)」、「使用中に部屋がすぐに暖まらない(41%)」などの回答があり、「暖房の維持・管理費」も 3 割の町内会館が困っている（図 12）との結果が得られた。

ここで、上記で挙げられたようなお困りと町内会館建設時のこだわりについてのアンケート結果を比較してみると「広さ(70%)」に次いで、「使い勝手(57%)」、「維持・管理(50%)」にこだわって建てたにも関わらず、表 3 をみると現在では使い勝手や維持・管理費に困っている会館が多い(図 13)。

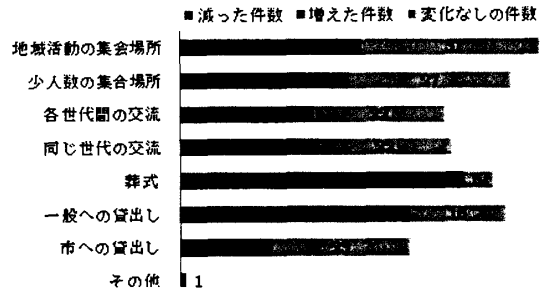

図 11　建設当時と比べた利用件数の増減 (N=64)

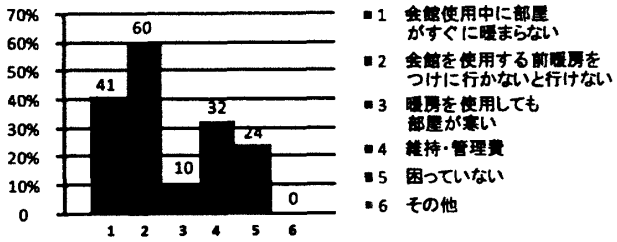

図 12　暖房利用についてのお困り

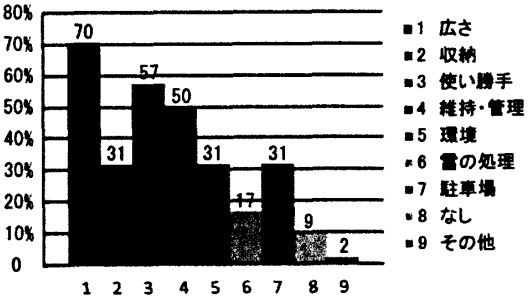

図 13　会館建設時のこだわり (N=54)

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

表 2　会館利用の活動

1位 (92%)	役員会
2位 (80%)	町内会議
3位 (74%)	婦人会
4位 (70%)	老人クラブ
5位 (66%)	カラオケ
6位 (60%)	祭り
7位 (34%)	青少年育成会
8位 (32%)	子供会
9位 (28%)	市の各種説明会
10位 (26%)	お茶会

表 3　管理・利用のお困り

1位 (53%)	維持・管理費
2位 (49%)	雪の処理 駐車場がない
3位 (24%)	暑さ・寒さが気になる 段差が不便 トイレが狭い
4位 (20%)	キッチンが狭い
5位 (19%)	玄関の開け閉め

写真 1：新富町会館の外観　二階は老人クラブの玄関である

写真 2：新富町会館のキッチン　料理するには2～3人が限度である

図 10　町内会館の写真

4. 町内会館へのヒアリング

アンケートより明らかになった利用件数の減少や、管理・利用の現状に対し実態調査およびヒアリング調査（図 1）を行った。結果は表 4 とする。暖房利用に関しては利用の約 1～2 時間前から複数台使用し部屋を暖めなければ利用できないことや、部屋の使用状況に関しては会館によって現在使用をやめている部屋もあるという現状があった[注3]。しかし、キッチンについては「広さ」が求められており、これは独自の昼食会や他の地域団体と連携して独居老人のための昼食会が行われているからである[注4]。

実態調査より、現在では一部の部屋が荷物置化していることから部屋数は少なくても良いと思われる。ヒアリングでも部屋は「大広間と小部屋」の２部屋あれば十分との回答もあった。新しい利用では他の地域団体と連携した利用があることで昼食会を通し交流を増やす機会があるなど良い面もみられた（図 10）。

表 4　ヒアリング結果の概要

町内会館の暖房利用について	ヒアリング調査よりわかったこと
①町内会館の時間と人数	①町内会館は夜に１～２時間程度であり人数は町内会によるが２０人前後で行われている。
②暖房の使用方法	②暖房は2～3台使用し会館の約１時間前からつけて部屋を暖めている現状であった。
③暖房の効果	③暖房から遠い人の中には上着を着たままの人もいるという町内会もあった。
キッチンの利便性について	**ヒアリング調査よりわかったこと**
①キッチンの利用方法と頻度	①キッチンは新年会など年間行事の際の利用しているが、基本的には出来合いの物を買ってくる。
②昼食会などはあるのか	②老人クラブの昼食会は定期的に行われており、町内会の中には煮物などを作りキッチンを利用している。その他にも町内会館によるが年に1回、独居老人のための昼食会を実施している。
地域活動での利用について	**ヒアリング調査よりわかったこと**
①町内会道具の保管場所としての役割	①祭り道具や地域清掃の道具などを町内会館の外にある物置に保管している。
②活動時の集合場所としての利用があるか	②地域活動を行う際の集合場所としても利用されている。また、道具を町内会館に保管しているので道具を家から持ってくる負担が少ないという利点がある

5. まとめ

町内会館の建設は昭和 40～50 年代に多く、その件数と規模は年々減少している。そして、会館建設のきっかけの一つであった葬式の利用は現在ほとんどなく全体の利用状況も減少している傾向にある。しかし、頻度は少ないが町内会議や地域活動の利用もあり、町内会活動の拠点としてまだその役割を果たしていると思われる。その一方で、会館利用の多くは高齢者による老人クラブやカラオケなどの利用から現在、会館によっては一部の利用者による趣味・娯楽の場と化している現状もある。その他の利用では市の各種説明会や、行政や他の地域団体による高齢者(独居老人)を対象とした昼食会など新たな利用も見られた。

現状の課題は会館利用者のほとんどが高齢者であり、冬場の暖房を含め会館の維持・管理費に困っている会館が多いので老朽化や会館存続への対処方法などが考えられる。今後は利用する部屋の縮小が考えられる一方で、キッチンは昼食会に関連し拡大の需要もあることからプランの見直しなども考えられる。

注記・参考文献

注 1　町内会館は徒歩圏内にあるので基本的に駐車場の重要性は低い。
注 2　管理と利用のお困りについてのＮはそれぞれ N=43、N=41 である。
注 3　消防法に関係して会館によっては一部の部屋利用（集会所）を止めている。
注 4　室蘭市社会福祉協議会の地区福祉協議会：全 12 がそれぞれ計画を立て平成元年から実行。平成 20 年までは 21 件の町内会館で実施。

1)　浅野平八：地域集会施設の計画と設計、理工学社、1995 年出版
2)　鴨川木綿子、野口孝博：住宅地における小規模コミュニティ施設の利用実態とそのあり方 - 札幌市内の町内会館を事例として -、日本建築学会技術報告集、第 22 号、P. 395、2005 年 12 月
3)　室蘭市連合町会協議会、室蘭市市民活動推進課：町内会・自治会に関するアンケート調査結果報告書、2008 年 12 月

*室蘭工業大学大学院工学研究科　博士課程前期
* Graduate Student, Department of Civil Engineering and Architecture, Muroran Institute of Technology, Graduate School of Eng
**室蘭工業大学くらし環境系領域　講師
** Lecturer, College of Environmental Technology, Muroran Institute of Technology

NII-Electronic Library Service